

パネルディスカッション：Z世代の"働く"を紐解く

ワークスタイル研究部会

Unraveling Attitude to Work in Generation Z. Work Style Research Group

司会者	妹尾 大	(東京工業大学)
パネリスト	福島 勇希	(明星大学大学院／novact 合同会社)
パネリスト	辻井 耕太郎	(プラス株式会社)
パネリスト	武部 雅仁	(三井デザインテック株式会社)
Coordinator	Dai Senoo	(Tokyo Institute of Technology)
Panelist	Yuki Fukusima	(Meisei University / novact)
Panelist	Kotaro Tsujii	(PLUS Co.,Ltd.)
Panelist	Masahito Takebe	(MITSUI Designtec Co.,Ltd.)

1.はじめに

1.1 本年度の研究内容について

ワークスタイル研究部会では各世代の働き方にどのような違いがあるのかを調査するために、定量面と定性面のふたつの視点から研究に取り組んでいる。定量に基づく研究では、2020年から2022年にかけて3度にわたり取得したアンケート結果をもとに各世代の働き方や働く環境に対する意識を分析している。Covid-19が蔓延する直前(2020年2-3月)、蔓延した時期(2021年2-3月)、常態化した時期(2022年2-3月)のデータとなっており、各世代の違いに加えて、Covid-19が働き方や働く環境に対する意識にどのような影響を与えたのかを明らかにすべく、研究を進めている。定性に基づく研究ではZ世代に焦点をあてる。実際に働くZ世代へのインタビューを通じ、働き方や仕事に対する価値観、仕事の作法などについて分析を行い、帰納的アプローチで一般解を導くこととしたい。

1.2 2022年度JOS大会発表内容について

2022年度JOS大会発表では定量と定性、2つの研究の中間報告を行う。そしてその内容をもとにX・ミレニアル・Z世代からパネリストを迎えパネルディスカッションを行い、パネリストには調査結果を踏まえ見解を述べて頂く。

生産年齢人口に占めるZ世代はまだ少数であり、Z世代の働き方や仕事に対する価値観に触れる機会はまだまだ少ない。Z世代が働く上でどのようなことを重視しているのか、ぜひ自身の働き方と照らし合わせながら、本ディスカッションに参加していただければ幸いである。

2.定量研究：アンケート分析

2.1 アンケートの概要

アンケート実施時期：2020年3月、2021年3月、2022年3月
調査手法：インターネットアンケート
回収サンプル：800名
調査対象者：国内の22歳～60歳の会社員・個人事業主の方

また各世代の年齢について当部会では以下のとおりとする。

各世代の年齢について

Z世代	～25歳(1997年～)
ミレニアル世代	26歳～41歳(1981～1996年)
X世代	42歳～57歳(1965～1980年)

2.2 アンケート分析から見てきた傾向

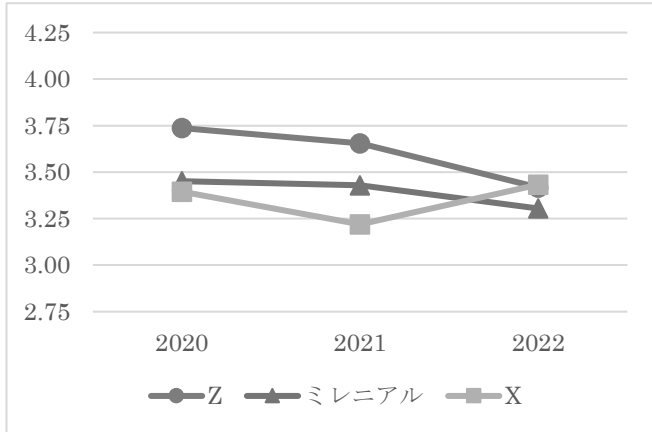
2020年から3年にわたり取得してきたアンケート結果の分析から特徴的な項目を以下に述べたい。

①環境変化に対する意識は保守的な方向へ

まずは各世代に共通する傾向として、環境変化に対する意識が保守的になってきている様子が見られる。「終身雇用か転職・独立」と「今の仕事を続けるか別の仕事を探す」の2つのアンケート結果の推移を見てみると、それぞれ「終身雇用」「今の仕事を続ける」という回答が増えている。海外ではグレートレジグネーション(大退職時代)という大量離職の現

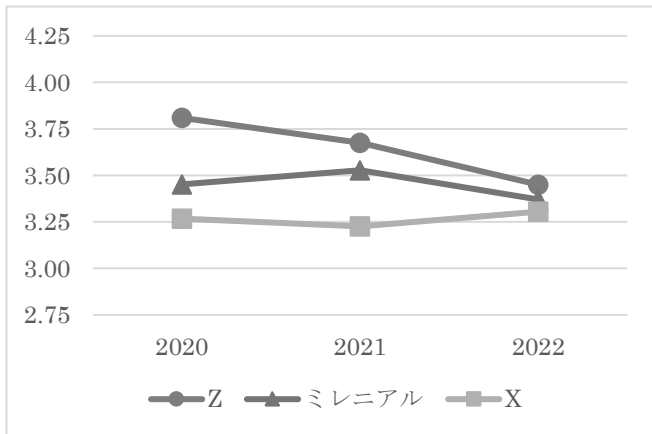
象が大きな関心を集めているが、今回のアンケートでは Z 世代を中心に covid-19 の影響により社会的不安が増大する中、保守的な傾向を求める人が増えてきている様子が伺える。

「終身雇用 か 転職・独立」



※数値は平均値、4.00 が中間（以下同）
数字が小さくなるほど「終身雇用」を希望

「今の仕事を続ける か 別の仕事を探す」

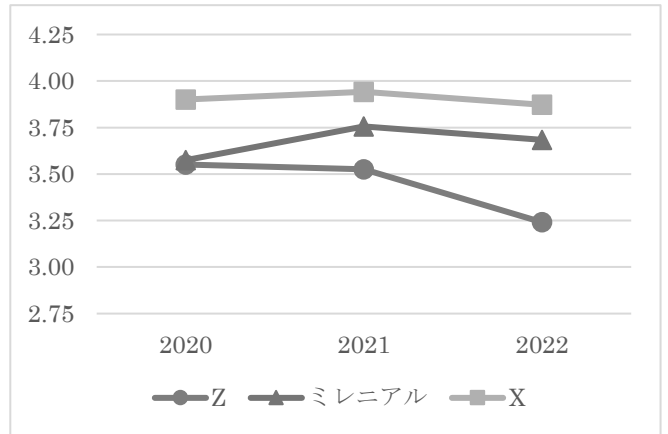


※数字が小さくなるほど「今の仕事を続ける」を希望

②Z 世代はチームで働く

次に Z 世代で見られた傾向を挙げる。「チームで働くか個人で働く」のアンケート結果の推移を見ると、2020 年時点では Z 世代とミレニアル世代の回答がほぼ同じであったが、2022 年には Z 世代でのみチームで働くことを望む回答が増加した。業務の複雑化が進む中、元来システム開発で用いられていた手法であるアジャイルやスクラムといったチームとしての仕事の進め方に特化したフレームワークを用いて生産性を高めていくことも一般的になりつつある。アンケート分析と並行して Z 世代を対象としたインタビューを進めており、その中から Z 世代のチームで働く上でのルールやコツなどを伺うことで、多くの気づきが得られるかもしれない。

「チームで働く か 個人で働く」



※数字が小さくなるほど「チームで働く」を希望

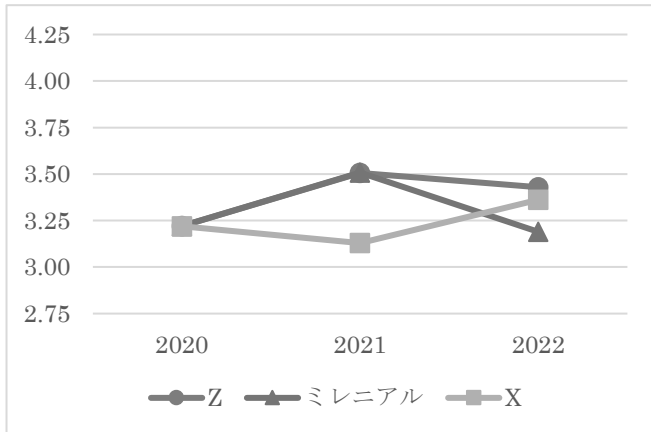
③自由な働き方を望む Z 世代というイメージは本当なのか

Z 世代の特徴として複業やギグエコノミーに対して積極的であることを挙げるメディアを散見するが、実際はどうか。2018 年の厚生労働省のモデル就業規則の改定を契機に複業を解禁する企業が出てきてはいるものの、日本ではまだまだ一般的とは言えない。複業に対する Z 世代の意識について今回のアンケートではどのような結果となっているのかを見ていきたい。

「本業に集中 か 兼業・複業にも取り組む」のアンケート結果の推移を見ると、Z、ミレニアル、X どの世代も本業に集中するとの回答が多く、また各世代に大きな差はみられない。さらに「企業に雇用される か 個人で単発仕事を請け負う」のアンケート結果を見てみよう。どの世代も企業に雇用されることを望む回答が多い結果となった。これらの結果を見る限り自由な働き方に対する意識に世代間の差はほぼなく、また冒頭の①と同じく保守的な傾向が強い。日本の Z 世代においては自由な働き方を望む層はマジョリティとはいえないのではなかろうか。

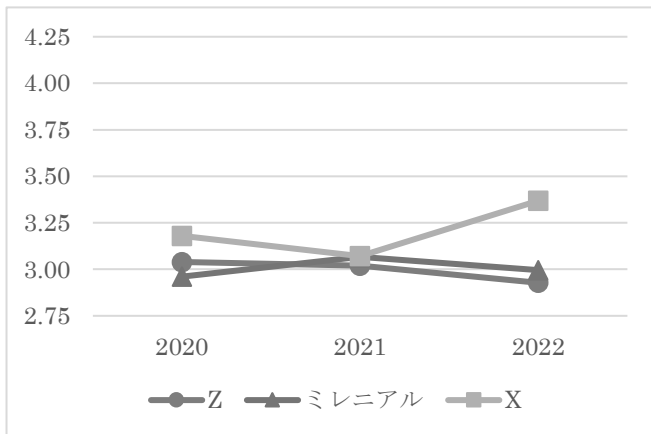
X 世代の数値の推移にも注目してみたい。2021 年から 2022 年にかけて「兼業・副業に取り組む」と「個人で単発仕事を請け負う」の数値が上昇している。日本政策金融公庫総合研究所の「2021 年度新規開業実態調査」*1によると、起業時の年代割合の上位は 40 歳代 36.9%、30 歳代 31.3%、50 歳代 19.4%となっている。X 世代の 42-57 歳という年齢は組織をけん引していく立場ではあるが、一方で起業する割合が高い層でもあることがわかる。人生 100 年時代と言われる中、寿命とともに働く期間も延びていく現代において、各個人が自分自身のキャリアに責任を持ち、セカンドキャリアについて考えることの重要性は高まっている。グラフの変化には、X 世代が自身の状況を俯瞰的に見ながら、今後の自身のキャリアについて思いめぐらせているという心理が表れているのかもしれない。

「本業に集中 か 兼業・複業にも取り組む」



※数字が小さくなるほど「本業に集中」を希望

「企業に雇用される か 個人で単発仕事を請け負う」



※数字が小さくなるほど「企業に雇用される」を希望

3. 定性研究：事例研究

「Z世代を中心に活動する組織に属する、又は個人で働くZ世代」を対象にインタビューを行った。尚、X~Y世代が混在する組織では、X~Y世代の思想や働き方が大きく影響する為、今回の調査ではZ世代の思想や働き方が尊重されやすい、Z世代が中心となって活動する組織を調査対象とし、今回は以下の3団体（原稿作成時）に協力を得ることができた。

- ① novact 合同会社
- ② 僕と私と株式会社
- ③ フラー株式会社

インタビューは、「働くことに関する価値観（ビジョン／モチベーション）」と「実際の働き方（ルール／環境／コミュニケーション）」の2つのテーマに沿って対面で行う。この調査を通して、Z世代の価値観が「働く」ということにどのように反映されるのか、またZ世代特有の働き方が存在するかなどを考察し、これから主流となる新たな働き方のヒントを探る。

4. 司会者及びパネリスト紹介

パネリストにはZ、ミレニアル、Xの各世代を集め世代間で意見交換ができるようにしている。Z世代の意見を中心に取り上げたいとの思いから、Z世代のパネリストについては2名お迎えする予定。（1名調整中）

【司会者】

妹尾 大（東京工業大学）

1998年に一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学。北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科助手、東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授、同准教授を経て、2017年より東京工業大学工学院教授。博士（商学）。専門分野は経営組織論、経営戦略論、情報・知識システム。

【パネリスト】

Z世代：福島 勇希（明星大学大学院／novact 合同会社）

明星大学大学院理工学研究科建築建設工学専攻修士2年生。学部4年次より働き方と建築の関係を研究している。2021年にnovact 合同会社の立ち上げに関わり、コミュニケーションデザインの分野を担当。

ミレニアル世代：辻井 耕太郎

（プラス株式会社プロジェクトマネジメント部）

2017年に京都工芸繊維大学大学院を修了後、プラス株式会社に入社。入社以来、オフィスに関する設計業務やプロジェクトマネジメント業務に従事。

X世代：武部 雅仁（三井デザインテック株式会社）

京都工芸繊維大学工学部卒業後、什器メーカー、アパレルメーカーで空間設計、デザインディレクションに従事。

2013年三井デザインテック入社、現在はワークプレイス/ワークスタイルのトレンドリサーチ、大学と共同研究（ABW）などを行っている。

謝辞

インタビューにご協力いただきました novact 合同会社、僕と私と株式会社、フラー株式会社の3社に改めて感謝申し上げます。

引用

*1 日本政策金融公庫総合研究所「2021年度新規開業実態調査」

https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/kaigyoy_211129_1.pdf

<ワークスタイル研究部会 研究メンバー>

足立 明子	プラス
石崎 真弓	ザイマックス不動産総合研究所
遠藤 一	オカムラ
菅野 誠	三幸エステート
妹尾 大	東京工業大学工学院教授 (部会長)
武部 雅仁	三井デザインテック (幹事)
趙 程林	東京造形大学室内建築大学院
辻井 耕太郎	プラス
津吹 未来	プラス
西谷 光雄	
福島 勇希	明星大学大学院 / novact
前原 洋介	プラス